



南高 Forever

File010 10. 2021

高橋 英典 氏

同窓生
函館西高校教諭

強いチームにすることより チームを強くできる そんな人でありたい。

本校野球部でキャプテンを務め、春季支部大会ではベスト4で敗れた経験を持つ高橋さん。現在は函館西高校で生徒指導部長を務めながら、野球部の指導もされています。

高橋さんの学年の南幌中学校野球部は新人戦地区優勝を果たすなど活躍してこられたそうです。当時の中学校の先生から「地元の子はぜひ地元高校に入学した方がよい」との勧めや本校から「マシンを購入するので、ぜひ入学を」との要請もあり、当時の野球部のメンバー〇人以上が本校に入学したのだそうです。

入学時の監督が一年で異動となり、野球に詳しいわけではない柳沼先生が監督を引き受けることに。技術面以外のことはしっかりと指導いただいたそうですが、技術面では生徒の自主性を重んじて練習メニューの構

成などは任せてくれました。高校三年生の春季大会では順調に準決勝まで進みます。夏季大会のシード権獲得のために負けられない試合でした。打撃戦となつたこの試合。力的には負けていなかったものの、戦術で負けたことが今も印象に残っているそうです。

今考えると、この試合の後、チーム作りを考えて活動してきたことが今の指導に役立っているそうです。

その後、大学生となり本校で教育実習。野球にかかわった仕事があったと考えていました。教師になる決意はなかったそうです。

ご本人は「危なっかしい教育実習生だった」と言っておられました。授業中つまらなさそうにしていた気になる生徒には、「どこがつまらなかった？」と聞くなど、生徒のことをわかってあげたいという熱意が



あふれていたそうです。
その熱意は、教育実習終了後も指導を補助するために、本校野球部の練習に足繁く通っておられたほどという事です。
そこまで熱意溢れる学生ですから、指導教官だった馬場先生から「あなたは教員になった方がよい」とのアドバイスもあり、教員になることを決意しました。

教員のスタートはやっぱりな生徒が少なくない学校でした。野球部の生徒は最初一〇人ほどしか在籍していませんでしたが、徐々に増えて、三〇人に。それに伴って地区の強豪校とも張り合えるくらいの力をつけていったそうです。
その後、三校の経験を経て現在の勤務校へ。その間、野球部が強い学校への異動が打診されたこともあったそうですが、「今、強いチームを指導すること以上に自分の指導でチームを強くすること」にやりがいを感じてこられました。
当時の本校はいわゆる「ツッパリ」系の風貌の生徒が少なくありませんでした。本校で野球部キャプテンとして、生徒会役員として活動していく中で、見た目でなく、人としてわかりあうことの重要性を感じてこられたことが、これまで

にどのような生徒と相對したときでも「あきらめずに生徒を理解してやろう」という気持ちを持ち続けることができる基礎となったと振り返っておられました。
そんな姿勢が高く評価され、複数の学校での生徒指導部長、北海道高等学校野球連盟での検討委員など、さまざまな立場でのご活躍につながっています。

へ南高生への伝言へ
たとえどの高校に進んだとしても、そこで過ごす三年間にマイナスイメージもあれば、プラスや強みもあるものです。
残り少ない高校生活かもしれないませんが、そういう強みやこの環境でしかできなかった経験や人のつながりを大切にしたいです。
そういうものを持つことができたなら、自分や自

分の所属する集団にプライドを持てるようになるはず。
「自分には力がない」と自覚した時がスタートです。力をつけようとするのか、仲間をつくって一緒に乗り越えようとするのか。どちらにせよ未来はこれからだと思います。
頑張ってください。

お話を伺っていて、何度も「その気持ちわかります」と共感していました。
野球部での敗戦を受けて高校生のときからチーム作りを考えて活動してきた高橋さんならではのお話でした。
ネームバリューの高いチームに在籍することよりも、自らが所属するチームのネームバリューを高められる人でありたい。
私もそう思います。